

学年	高校3年	教科	数学	科目	数学演習	単位数	2
教科書名	Challenge Workbook 文系数学 (学研)			副教材名	4プロセスI+A (数研出版) 4プロセスII+B (数研出版)		
コース	スポーツ・芸能コース			担当者名	杉浦 美穂		

I. 目標

数学の基本的な原理や法則を理解させ、知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力と態度を育てる。日本大学基礎学力到達度テストで必要な数学I・A・II・Bの基本事項を学び、日本大学基礎学力到達度テストの問題が解けるようになることを目標とする。

II. 授業のねらい

基本事項をしっかり理解させ、知識を整理するとともに、総合的に数学を解く力を身につける。その時々で問題を解く時間を設定し、試験をイメージさせる。

III. 授業の進め方

1. チャレンジワークを中心に、授業を展開する。日本大学基礎学力到達度テストの過去問題や日本大学の一般入試の過去問題、演習プリントなども適宜教材として扱う。
2. 小テストを実施し、定着の度合いを図る。

IV. 学習上の留意点

1. 問題集、問題集用ノートを必ず用意して授業に臨むこと。
2. 定期試験の返却後、間違えた問題を確認し、復習を必ず行うこと。
3. 提出物の期限は必ず守ること。

V. 定期試験

問題集の内容を中心に、日本大学基礎学力到達度テストレベルの問題などを出題する。

- 1学期 中間試験 : 数学I A、II B
1学期 期末試験 : 数学I A、II B
2学期 中間試験 : 数学I A、II B
2学期 期末試験 : 数学I A、II B

VI. 評価の方法

定期試験、小テスト、提出物の提出状況と内容、授業の取り組み方などを総合的に評価する。

VII. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標		
一学期	4	数と式 2次関数 三角比 データの分析	定期試験 小テスト 提出物	<ul style="list-style-type: none"> ・有理化、対称式の性質を利用して式の値を求められる。 ・2次関数の最大値・最小値の問題を解くことができる。 ・2次関数のグラフにかかわる種々の問題を解ける。 ・三角比の基本的性質を理解し、正弦定理、余弦定理を使って、問題を解くことができる。 ・データを読み取ることができる。 ・順列、組み合わせを理解することができる。 ・確率の基本的解法から、条件付確率まで理解することができる。 ・n進法の性質を理解することができる。また、ユークリッドの互除法を用いて、1次不定方程式を解くことができる。 ・各種の定理を利用して、辺の長さや線分比を求めることができる。 		
	5	場合の数 確率 整数の性質 図形の性質 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数				
	6	指数関数・対数関数 微分法と積分法 数列 ベクトル				
	7					
	9	到達度テスト過去問演習			定期試験 小テスト 提出物	<ul style="list-style-type: none"> ・過去問題を使用して、各々正答率を上げることができる。 各大事の正答率を70%以上とする。
	10	日本大学一般入試過去問題演習				
	11					
12						

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。